

令和5年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会

第2回幹事会

■ 日時 令和5年11月22日(水) 10:00~12:00

■ 場所 四日市商工会議所 3階大会議室(オンライン併用)

■ 出席者

(有識者)

村山顕人、松本幸正、有賀隆

(交通関係者)

小瀬古 恵則(代理)、伊藤真郷

(商工関係者・大規模権利者・事業展開企業)

伊藤 和泉(代理)、木室康弘、水谷 貴宣(代理)、鈴木主計、北島肇、

今井 健太(随伴)、吉田健、安達 勝也、山本 龍太郎(随伴)、中尾 淳、福田賢治(随伴)、片山哲郎、

白江 真二(随伴)

(行政)

毛利勇、築地静(随伴)、辻哲二、左橋直(随伴)、舘英次

(賛助会員)

中村 出、福田泰之、小出優(随伴)、島田 真安(随伴)、栗田 雄介、小松 萌

(オブザーバー)

国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官 崎谷唯比古

国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長 後藤直紀

国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 専門官 川口貴弘

国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官 前葉光司

■ 次第

1. 開会

2. 議題

・議題 第1号 今年度のスケジュールについて

・議題 第2号 ワーキンググループ(WG)の実施報告

・議題 第3号 令和5年度スマートシティ実装化支援事業の進捗について

・議題 第4号 その他報告事項について

3. 閉会

■内容

【1. 開会】

<進行>

それでは冒頭挨拶として館副市長、一言お願い致します。

<館副市長>

本日はR5年度第二回幹事会にご参加頂きありがとうございます。四日市スマートリージョン・コアの取組も進んでおり、中央通りにおける自動運転実証、アイデアソンの実施なども行われております。

自動運転実証は11月1日から、11月19日まで行われましたが、内2日間は「B-1グランプリ」と一緒に社会実験をさせていただき、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、非常に賑わいました。当初は10万人ぐらいを想定しておりましたけれども、2日間で20万人を超える方々に、県外も含め、遠いところからもこの「B-1グランプリ」のイベントに来ていただいております。今回の実証実験がそういった方々の目にも触れ、実際に体験していただくということも出来まして四日市のPRにも十分なったなという思いでございます。本日の幹事会では、そのようなワーキンググループのご報告と共にその他にも国交省の実装化支援事業の現状報告もさせていただくことになってございます。また、その他の項目の報告事項としてはアイデアソンの実施結果、それから中央通りの整備状況などもご報告をさせていただく予定でございます。どうぞよろしくお願い致します。中央通りの整備も着々と進んでまいりました。現在、車の切り回しもどんどん始まっていき、円形デッキの整備も行っていき、着々とハード整備が進んでまいります。それとともにこのスマートシティの計画を着々と進めていきたいと思っております。どうぞ本日も忌憚のないご意見を頂戴致しましてよりよいスマートシティの構築に向けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

<進行>

ありがとうございました。続きまして本来であれば、ご出席の委員、企業、団体の皆様のご紹介をさせていただきたいところではございますが、時間の関係もございますので、別添の出席者名簿に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【2. 議事】

<進行>

本日の議題は報告事項を中心にご説明を予定しております。具体的には、今年度のスケジュールについての確認とワーキンググループの実施報告を頂戴した後、スマートシティ実装化支援事業の進捗についてご説明させていただきます。最後にその他報告事項としてまちづくりワークショップと中央通りの工事状況についてご説明させていただきます。ご質問やご意見を頂戴する時間は、議題ごとに適宜設けさせていただきます。それでは一つ目の報告事項に移ります。ここからの進行は座長の村山先生にお願いしたいと思います。なお、村山先生はオンラインでのご参加になりますので、皆様ご発言の際には挙手をいただきます。事務局側でフォローをいたします。では、村山先生よろしくお願い致します。

<村山先生>

はい、承知いたしました。大学の講義の関係で四日市にお伺いできず申し訳ありません。

まず初めの議題は令和5年度のスケジュールについての確認です。詳細のご説明は日建設計総合研究

所様よりお願いいたします。

<日建設計総合研究所>

資料2に基づいて説明

<村山先生>

ご説明ありがとうございます。スケジュールについてご意見やご質問ある方は挙手の上発言いただけますでしょうか。オンラインの挙手の機能を使っていただいて、会場の方は政策推進課さんお願い致します。いかがでしょうか。

(会場、ウェブ会議挙手なし)

では、無いようですので次の議題に進みたいと思います。議題 2 です。ワーキンググループの実施状況に関するご報告です。前回の幹事会以降に各ワーキングで実施された会議の内容を報告していただきます。それぞれのワーキングの代表企業様からご説明いただきたいと思います。はじめに、データプラットフォームワーキングの代表である株式会社シー・ティー・ワイ様からお願いいたします。

<シー・ティー・ワイ>

資料3に基づいてデータプラットフォーム WG の報告

<村山先生>

どうもありがとうございました。ご質問や意見交換はモビリティワーキングの後にまとめて行いたいと思います。続きましてモビリティワーキングの代表企業であります株式会社マクニカ様からご説明よろしく願います。

<マクニカ>

資料3に基づいてモビリティ WG の報告

<村山先生>

ご説明ありがとうございました。

2 つのワーキングの実施状況についてご意見やご質問のある方は挙手をお願い致します。

いかがでしょうか。なければ私からデータワーキングの方でスライド P4 にサービスを含めた全体ストラクチャーの図があって非常に分かりやすいと思いました。これに関して 2 つ質問があります。いずれもサービスの内容が見えていないというご指摘に関する質問ですが、この後出てきたエリアプラットフォームとの連携事業、具体的にはマップを作っていくということに関しては、この図でいうと一番上のサービスの一番右のその他のサービスに位置づけられるのでしょうかというのが 1 つ。つまりエリアプラットフォームというのは民間の取り組みなので、その他のサービスなのかなというふうに思いました。

もう一つは今中央通りの整備が進んでいまして、近鉄四日市駅の西側にどんどん先行区間に整備がされている中でセンサーなどが整備されていくと思うのですが、これをどのように使っていくのかという議論がまだどこでもなされていないような気がします。これはこの図でいうと、サービスの一番左側の事業者行政向けダッシュボードに関わるところなのかなと。環境・微気候分析とか人流カウント分析、混雑度分析などが書いてあるのでその辺が該当するのかなと思うのですが、この中央通りで具体的にってきたデータを、誰がどのような目的でどう使うのかというところの議論をこれからどこでやっていくのかについて、質問したいと思います。もしかすると四日市市さんにお聞きしたほうがいいかもしれない質問ですが。可能な範囲でよろしくお願い致します。

<シー・ティー・ワイ>

ありがとうございます。データプラットフォームワーキングのシー・ティー・ワイでございます。2点ご質問頂いたと思っております。四日市エリアプラットフォームのサービスがというところですが、村山先生のおっしゃる通りその他のサービスというところの位置づけになろうかなとは思っております。

後ほど国交省スマートシティ実装化支援事業のところでご説明をさせていただこうとは思っているのですが、その中で市民向けのダッシュボードを作ろうというふうに、今考えております。市民向けのものなので、難しいデータやグラフというよりは、直感的にわかるものの方がいいと思っております。

ポータルの中にもう一つ市民向けダッシュボードという表記がありますが、これがいわゆるデジタルマップを活用しようかというところで考えております。ここある程度リンクはしてくるかなと思います。ただこのデジタルマップの中にはエリアプラットフォームが持っているスポット情報が既に入っているというわけではないです。エリアプラットフォームが独自にもうちょっと可愛らしいものを作りたいとなれば、そのような形になるでしょうし、そのあたりは会話をしていけないかなと思っております。

2点目がデータをどう使っていくのかというのは、ご指摘をいただいた通り、まだしっかりと議論が足りていないかなと思っております。これはワーキングの中でもしっかりと議論していきたいと思っておりますし、構成員の事務方のところでもしっかりとしていきたいと思っておりますけれども、今回、国交省のスマートシティ実装化支援事業の中では、市民向けのダッシュボードもそうですし、ちょっとプロ向けというか、事業者であったり、行政様であったり、例えば街中でイベントしようというところで、どんな人流があるのかを見られるような2つのダッシュボードを構築しようというふうに思っております。これは四日市のいわゆるもう1個のポータルからアクセスができるようにして、プロ向けのところはIDを発行して誰が見ているのかを見ていこうと思っております。こういったところで市民に知ってもらいながら、データをまずは街中で市民に浸透していく必要があるかなと思っております。まず今はその段階の検討しか進んでいませんのでもう少し具体検討する必要があると思っております。

<村山先生>

はい。よくわかりました。ありがとうございました。他にご質問やご意見はございますでしょうか？

はい。まずは有賀先生、次に国交省の崎谷さんお願い致します。

<有賀先生>

それぞれワーキンググループの方で、着実に進めていただき、ご説明いただいて、大変ありがとうございます。データプラットフォームのWGについて質問というか、コメントをさせていただきます。スマートリージョン・コアの究極の将来目標として、効率化をしていくこと、無駄を省くこと、新しい価値を作ること、強靱化を図ること、エネルギーの効率化を図ること等があると思うのですが、特にデータプラットフォームのところで今日ご説明いただいたのは、新しい価値を作ること非常に大きく寄与するものと思うかがってました。

とりわけ、エリアプラットフォームとの連携の中で、現在試行的に、これから様々な実験をやられると思うのですが、よく回遊性と僕らも言いますし、賑わいを作ることが大事だと言うのだけでも、スマートリージョン・コアの今ご説明いただいたデータプラットフォームのようなものができるとマイクロ回遊性っていうんですかね、都市の中で非常にマイクロなしかも多様な回遊性が同時多発的に生まれるような仕組みができるんじゃないだろうかと。つまり、それは商業集積地に皆が一緒にどーっと動いていくっていう回遊性ではなく、あるいはある一定の時間にどーっと動いていくのではなく都市の様々な多様なサービス提供者、あるいは価値を提供する場所等々がデータプラットフォームの中で、より顕在化可視化されてくるとともに、

利用者が発信するいろんな価値が見える化されてくるわけで。そうすると、その利用者が発信する見える化された価値情報みたいな。まあ意味情報ですよ。定量情報というか、むしろ意味情報に近いと思うのですが、そういうものが共有化されることで、様々なミクロの回遊性が生まれてくるんじゃないかなと思っています。それはおそらくデータ上で、先行的に可視化されてくるんだと思うので、そうすると今度は実際街中のハードにフィードバックされて、ハード系の市街地の環境や空間の更新にうまく連鎖するような仕組みになってくると、これはバーチャルのデータプラットフォーム上の意味情報と、リアルな都市空間がうまく連動してくる可能性があるんでそういうものに将来的につながっていくようなものができてくると非常に面白いかなというふうに思いました。それが一つです。そういう意味情報の集積可視化は、本当にデータプラットフォーム WG でやられているところで出てくると非常にいいと思いました。

それから、モビリティの方については、これも自動運転の実証実験を着実に進められている。去年の社会実験の時に私もマクニカさんの自動運転車両に乗せていただきましたけど、そこから比べると、いろんな自動運転車両が提供されていて、とてもいいなと思っていました。ここについてもコメントがあります。ある意味では、先程ご紹介いただいた小型のベンチが動くものがありました。小型パーソナルモビリティとしての、そのような乗り物は、やはり従来なかなか想像できなかったもので、これも非常に大きなインパクトがあると思って伺いました。いわゆる人が持っている運動能力の拡張のような取組が、自動運転等、モビリティの先進的な技術とうまく融合してるのかなと感じています。今、別の都市でも、デベロッパー等が協議をしている中で、いわゆる電動キックボードのような割とスピードが出るもの、いろんなものが普及過渡期のものが議論されています。そのようなパーソナルモビリティだけだと、ゆっくり安心できる移動がだんだん肩身が狭くなってしまいます。逆に言えば優しい移動手段、安心できる移動手段に向かう流れがだんだん縮小してきてしまっている。街中というのはやはり高齢者も使うし、子どもたちも使うし、そういう意味での多様なモビリティを提供していく意味でも、今回見せていただいたような身体能力・運動能力を拡張する小型パーソナルモビリティのようなものが 1 つの例になると思います。それが出てくると、他のスピードを持ったモビリティとどうやって共存していくのかというのが今後の話となると思う。少し先の将来になるかもしれないが、本当にスマートシティが実現して、例えば AI 搭載のモビリティが普及してくると、AI 同士がちゃんと通信できるようになるとおそらく信号いらなくなると思うんですよ。ぶつからない交通システムができる。ただ、その時の問題は、歩行者や人が介在するリアルな空間といろんなものが混ざるときにどう安全を確保するのか、特に歩行者空間の安全を確保するのかということ。少し先の話をしましたが、もちろん幾つかのステップがあってそのプロセスごとにきちんと実証していくことが必要であり、一つのあり方として、今回のようなスローモビリティも非常に可能性があると思っていました。そういう意味では、ここで先行的に様々試行がされたものが最終的にはリアル空間にも還元されることに期待します。中央通りだけじゃではなく、その周辺の諏訪栄町或いは浜田地区なども含めた周辺中心市街地の作り方にも関わってくるので、各地区の設計条件・計画条件にも将来になっていくのではないかと感じており、非常に大事なことかなと思いました。

あとは両方の WG に関して、いわゆるクロスリンガルの観点からコメント。利用者の多言語化、多様なニーズ、文化的な違い、暮らしの違い等、クロスリンガルなニーズに対して、データプラットフォームや、あるいはスマートリージョンの中で進められるモビリティのあり方は非常に大事なものになっていくんじゃないかなと思っていて。どんどん通信環境が良くなるとともに多文化多言語化の中でのコミュニケーションと、あるいはモビリティ上でのコミュニケーションですね。例えば、サービスを提供する側の出し方にしても、サービス

を受ける側のニーズにしても、先程の個人の発信する情報にしても、個人の受け手になる情報も、クロスリング化をどうやって自動化できるかっていうのは、データプラットフォームの要になるかなと思う。従来の通訳機とか翻訳機の世界をはるかに超えたところで、リアルタイムでクロスリングのコミュニケーションがどう実現するのは次のキーになると思うので、先々の話ではあるが、いずれのWGにも関わってくると思って伺っていました。ありがとうございました。

<村山先生>

ありがとうございました。非常に前向きかつ重要なご意見をポイント3つぐらいありましたけれども、ありがとうございました。続きまして国交省の崎谷様、お願い致します。

<国土交通省>

国土交通省の都市局の崎谷です。私の方からオブザーバーではあるのですが、データプラットフォームワーキングとモビリティワーキングそれぞれの発表についていくつかお聞きしたいことがあります。

1つ目。データプラットフォームワーキングのP4の全体の図の中で、今データプラットフォームの基盤と言いますか、ここを現時点での構築範囲っていうことで、ここはできるところなのかなと思うんですけども、ここに今どのような都市データを集めることができているのかあるいはできていないのか現状をもう少し教えていただければと思います。

ここからはコメントなんですけど、やはり人流データ等をとっていくということは大事だと思ってまして。先ほどワーキングの報告の中でも例えばアンケートを取る以上のものをデータから集められないかとか、そういったお話あったと思うんですけども、こういったところを来街者の方も市民の方も含めて、様々な人流があってそれをなんとかデータで自動的に取れるような仕組みがあると、非常に今後のまちづくりにも役立っていくのかなと思いますので、そのあたりいろんな工夫の仕方があると思います。例えば、スポットを通った時に携帯端末のBluetooth・WiFiを使って、個人情報を含めない形で端末が通ったというデータを集め、そのようなスポットをいくつか設けることで、どういう順序でどこに行ったかが、追える仕組みがあると思います。そういった技術を駆使しながら情報を集めることも今後できるといいのかなと思いました。

あと、モビリティワーキンググループの方で有賀先生のコメントいただいたところも私は非常に共感をするとところであります。我々ウォークブルの取り組みをやってまして、人中心の空間づくり、歩行者に優しい空間作り等を推進してるわけですけども、そういう意味で様々なモビリティが混在する空間ももちろんあるだろうと思っていて、歩行者だけではなく他のモビリティ、あるいは自転車とか車椅子とかいろんなものが同じスペースを共有して、動いていくことももちろんあり得ると思っています。こういったパーソナルスローモビリティのようなものは、車椅子に乗ってるわけではないんですけども、歩くのが長距離はしんどい方とかいろんな属性の方に、選択肢を与えることができ、非常に面白いと思っています。

電動キックボードも歩道を走る場合には時速6キロ以下の制限をかけられるわけですけども、やはり歩行者と混在するにはそれなりのスピードの制限や安全対策が必要になってくると思います。そういったところもクリアできるものが入っていく分には、選択肢が増えていいんじゃないかと思って見ていたところがございます。

また、ヒューマンスケールのもので、例えば電動キックボードの早いスピードだと見逃してしまうようなものでも、ゆっくり歩けば見れるものもあって、このお店にも入ろうかなというような、人が歩くのと同じような感覚で使えるようなものが出てくるといろいろ拡張されていくのではないかなと思いました。

あと、モビリティの方で 1 つ質問させていただきたいのは P6 で今年度の自動運転実証実験について説明がございましたけど、こちらでローカル 5G と 4G の区間があって、それぞれ応答速度の違い等を見られたのではないかと思います。ローカル 5G を入れることによる効果として、分かったことがあれば教えていただければと思います。以上です。

<村山先生>

はい、ありがとうございました。たくさんコメントをいただきましたのと 2 つ質問がございました。まず、データプラットフォームで、どのような都市データが今アップされるような状況なのかという点ですね。お願いします。

<シーティーワイ>

はい、ありがとうございますデータプラットフォームワーキングのシーティーワイでございます。この資料ベースでいくと、真ん中のピンク色の囲みであるところは、基本的には動的なデータを貯めていくことを考えておまして、今のところはデータとしては溜まっていない状態になります。今回は国交省様にご支援をいただく AI カメラのデータが実際に溜まっていく動的なデータとしては初めてという形になります。左側のデータカタログは、施設や場所などのいわゆる静的なデータを貯めていきます。それからコメントをいただきましてありがとうございます。市民・来街者のニーズにあったデータということですが、街中の方と会話していると、やはりより市民に近いデータが必要なのかなと感じております。ご意見おっしゃる通りかなと思っておりますので、市民の利便性につながる、使っていただいているサービスからデータを取っていく形が一番スムーズと考えています。これは街中の方々と会話し、データを提供していただく方々と会話しながら進めていきたいと考えてございます。以上でございます。

<村山先生>

はい、ありがとうございます。もう 1 つ、モビリティに関して自動運転の仕組みの中でローカル 5G と 4G を比較していらっしゃいますが、この違いについて補足をお願いします。

<マクニカ>

比較させていただいて、実際のところ、車両 1 台でも画面で比べて、違いはあります。ローカル 5G は非常に大量のデータが送れます。今回は 1 台だけの車両で比較しました。ただ、実際実運用を考えると 1 台 2 台ではなく、四日市の中で数十台になることもあると思っています。そういった大量の車両を管理するためには、大量のデータがやり取りできる幅を確保する必要があり、やはりローカル 5G でないとダメなのかなと。更にもう一つはローカル 5G の特徴として、通信キャリアが提供するものではありません。ですので、災害時に切れづらいというお話をいただいております。通信確保は非常に重要だと思っております。先週日曜日には B-1 グランプリで四日市に大量に人が来ました。皆さんスマホを持っています。我々も普段は LTE を使って遠隔監視しているが、四日市に大量に人が訪れたことで、遠隔監視が切れたり、遅く、ラグという現象が発生しました。自動運転運行している時にはそれがクリティカルになりますので、そういう意味では表に出づらいですけどローカル 5G というのは活用がしやすい通信技術じゃないかなと感じた次第です。以上です。

<村山先生>

はい、ありがとうございます。崎谷さん、よろしいでしょうか？

<国土交通省>

はい、よくわかりました。ありがとうございました。

<村山先生>

崎谷さんのコメントの中で、いろいろなスピードのモビリティが共存するようになるという話がありましたけれども、今回の中央通りの再編の中で、車道がかなり狭くなって、自転車道が整備されて歩道がかなり拡張されますがそういう中で歩行者よりのモビリティなのか、それとも自転車よりのモビリティなのかという仕分けをして、大きくスピードが異なるものについて分けていかなければいけないんじゃないかなとも思いました。そこはハード整備との関係でこの街の場合は、うまくいきそうな感じがします。

では次にまいります。もし言い忘れたことがあれば最後にご発言いただく機会を作りたいと思います。では、議題 3 国土交通省都市局が所管する R5 年度、スマートシティ実装化支援事業の進捗について日建設計総合研究所と関係する自治主体の皆様からご説明をお願いいたします。

<日建設計総合研究所・シーティーワイ・マクニカ・早稲田大学・日建設計>

資料 4 に基づき説明を行った。

<村山先生>

はい皆様どうもありがとうございました。では、今の一連のご説明に対してご意見やご質問がある方は挙手をお願いします。いかがでしょうか。

私からいいでしょうか？1点目は利活用空間活性化ツールの構築のダッシュボードのところですか。大きく自治体事業者向けと市民向けという構成になっていて、それぞれ提供される情報の質が違うんですけども、左のものも場合によっては市民や市民団体の方も関心があるというか市民の方にプロの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。例えば、環境のことをやっているという団体は左の詳しい元データも見たいと思うのではと思います。こういう分け方もいいんですけども、右側をスタンダードなものとして、左側をアドバンスと呼ぶとか、必ずしも市民、事業者、自治体に分けなくてもいいのかなというふうに思いました。これは議論の余地があるかもしれません。

2点目は早稲田大学様のバーチャル空間のコミュニケーションツールですけどもとても先端的で面白いなと思いました。中央通りは、どんどんこれから再編整備が進んでいくのでこの 3D 都市モデルを頻繁にアップデートしないとイケないのかなと思うのですが、設計図というか、基本計画レベルではできているわけですので、これから変わる部分のモデルをどのように更新されていくのかについて、教えて頂ければと思います。

まずダッシュボードの構成についてワーキングからお願い致します。

<シーティーワイ>

ありがとうございます。先生おっしゃられるように、左側のダッシュボードというのは、いいネーミングを考えたいと思います。市民団体であったり、民間でイベントを実施したいという方もいらっしゃるかと思います。そういった方々も数値化したダッシュボードを見たいと思いますので、そういった方々が見られるような形にはしていきたいというふうに考えています。

<村山先生>

どうもありがとうございます。では早稲田大学さん、あの空間モデルの更新についてはいかがでしょうか？

<早稲田大学>

はい、ありがとうございます。

Project PLATEAU(3D 都市モデル)への重畳の仕方というのは、まだ検討段階なんですけれども、④で日建設計さんからご説明があったように、こちらも同様にどのようなデータであれば重ねられるかというところ

ころの技術的な課題、検討事項を踏まえてレイヤーの重ね方の調整が必要とっております。LOD の凡例にある LOD1~LOD3 は、レイヤー表示でクリックすると見えたり、見えなかったり切り替えができると思うのですが常に表示されているようなデータではなくて、クリックすると元のデータに乗っかってくるような、表示が見え隠れするような重ね方なども検討しております。

<村山先生>

どうもありがとうございます。いずれにしても PLATEAU に重畳するというのがポイントなんですね。これは④のプロジェクトもそうです。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

<松本先生>

四日市版 MaaS の件で少しだけ。まずはフェーズに分けながらやれることを確実にやっていくというステップは、私は評価しておりますし、実際に一步一步進んでいて成果も出てきてるなと思ってます。そういう中でいいなと思ったのが、このデジタルスタンプラリー、さらにグーグルマップとの連携が出来あがってきているというのは、素晴らしいことだなと思ってます。せっかくやれているので注文という意味でさせて頂ければと思ってます。まず 1 点目は、今特に若い人たちがどうやって、行く場所を探すかと言うと、インスタなんですよね。インスタで行く場所を見つけて、そしてグーグルマップで行く方法を見つけて、そして行くという形なので、このインスタの情報との連携というのができると実はわざわざ主体の方から情報発信しなくても、市場の方で情報発信をしてくれるので、それをうまく活用しない手はないなと思ってます。まあ、特に四日市の工場の夜景クルーズなどいっぱいインスタ上がっていると思うんですけど、そうするとそこにどうやって行くんだと検索をかけて。その時四日市 MaaS が連携できるといいなと思ってます。

もう一点はデジタルスタンプラリー。これ非常に良くて実際に周遊も生まれるんだろうなと思ってます。これはこれで非常にありがたいなと思ってますが、本来の意味の周遊と考えた時に、実は回ってもらうだけでは少し物足りないなと思ってます。できれば多くの方々を巻き込みながら周遊してもらうということが大事だなと考えています。実は他の自治体さんで、同じような仕組みをデジタルを使わず紙のスタンプでやりました。何をやったかと言うと、店主さんとジャンケンをして、ジャンケンの数に応じて一個のスタンプ、あるいは勝ったら 3 つのスタンプをあげるというものです。そうするとそこで店主の方と来訪する方々の交流が生まれ、勝った、負けたで笑顔も出てきますし、ちょっとした会話も出てくる。さらに普段入るようなことはないようなお店に入っていったりですね。実はお店だけではなくアトリエとか、あるいは工房とか、そんなところを場所にしてたんです。何が言いたいかと言うと、デジタルはデジタルでいいんですけど、地域の方々との交流を生むような仕組みもぜひ作っていただきたい。もっともっと市全体エリア全体の活性化につながるし、協力も得られていい形になっていくかなと思ってます。

この 2 点、インスタとの連携、そして地域の方々の巻き込みということで、可能性としていかがでしょうか。

<村山先生>

先生、ありがとうございます。マクニカさんお願いします。

<マクニカ>

1 番目おっしゃる通りだと思います。インスタ連携、Z 世代連携は非常に重要なこととも思っており、検討を進めていきたいと思っています。地域の方々との交流は非常に重要だと思っております。これは MaaS だけではなく、自動運転も同じだと思っております。先ほどジャンケンの例もありましたが、別途どういう交流があるかも含めて、相談をさせていただきながら来年度実証実験盛り込んでいければなと思っております。ありがとうございます。

<松本先生>

多分それをマクニカさんが全部やるというのは不可能だと思っています。

地域の方々の協力を得ながらやれば良いと思います。

<マクニカ>

そうですね。はい、ありがとうございます。

<村山先生>

はい、どうもありがとうございました。

他にご質問やコメントございますでしょうか？

はい、それでは意見交換は以上とさせていただきます。今度は議題 4 ですね。最後の議題になります。その他報告事項として 8 月 11 月に実施されたまちづくりワークショップそれから中央通りの工事の進捗等についてシーティーワイ様それから日建設計総合研究所様からご説明をお願いいたします。

<シーティーワイ・日建設計総合研究所>

資料 5 に基づき説明を行った

<村山先生>

はい、どうもありがとうございました。それでは今のご報告、それから今日の会議全般にわたってご質問、ご意見ございましたら是非ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか？

よろしいでしょうか、はい。ではご質問追加のコメント等ないようですのでこれで終了したいと思います。本日はありがとうございました。それでは進行を事務局へお返しします。よろしくをお願いいたします。

<進行>

村山先生、ありがとうございました。それでは、もしよろしければ全体を通して改めて松本先生コメントいただけますでしょうか？

<松本先生>

名城大学の松本でございます。まずもっているいろんな事業等々が進んでいて、一步一步着実に前に向かって新しいことにもチャレンジしてということで、そこはすごく評価したいと思っております。一方でちょっと批判的な発言をさせていただこうと思います。イケイケドンドンの中であまり水を差してはいけないとは思いつつも、前もお話しさせてもらったんですが、あと先ほどマクニカさんの取り組みなどの場合も、デジタルスタンプラリーでも、いわゆる市民の方々、あるいは沿道の方々の巻き込みという点では少し不十分かなという気がしております。おそらく皆さん計画通り、予定通りに進めないといけないということで、そこまでなかなか手が回らないということだと思っておりますが、こういうまちづくり、都市整備は、プロセスがすごく大事だと思うんです。このプロセスの中で、いかに市民の方々と一緒に作り上げていくか、まさにそれがプラットフォームになっていくと思いますので、その辺をもっと意識してもいいんじゃないかなという気がしています。例えば効果計測などでも、中央通りの人流だとか、あるいはイベントの参加者とかもあるかと思うんですが、実は大事なのは周辺の商店街の売上げが伸びるとか、商店街のところの交通量が増えるとか。あるいは公共交通ですよ。公共交通の利用自体が、まちが元気になることによって増えてくるとか、そういう周辺との関係をしっかり見ないといけないなと思ってます。そもそもこのプロジェクト何のためにやるんだと言ったら、そこが狙いだと思うんです。ですから、もう一度、その辺を意識しながら、皆さんも手一杯なんでもっともっとうろんな方々にご協力いただきながら、そういった効果の計測等々、あるいはそこを含めたプロジェクトというか、事業などを立ち上げてもらうといいかなというのが一点目です。

もう一つは、そろそろ考えないといけないなと思ってるのがマネタイズです。今一生懸命作ろう作ろうということやられてますが、ではその後どうするのか、例えば情報機器とか作られておりますが、それをその後どう維持管理していくのか更新していくのか、どうやって使ってもらおうのかということ、そろそろ考えていかないといけないなと思ってます。今のところはとにかく補助金があるので、それで作っていきこうというところなんですが、その先がちよっと見えてないなと思ってます。そういう意味でも皆さんと一緒に協力しながら、その利活用を考えて、そしてその後も継続的に維持管理もしていけるという。そういう姿勢もそろそろ持っていないといけないんじゃないかなと。水を差すように申し訳ないんですが、傍から見て人間としてはちよっと心配になったというところでもあります。ですが、皆さん、今やって頂いていることはすごくいいので、それをやりながら今言ったことは少し頭の片隅に置いてもらうといいかなというぐらいです。

以上でございます。

<進行>

松本先生、ありがとうございました。続きまして有賀先生から何かコメントいただけないでしょうか。

<有賀先生>

それでは少し手短にお話ししたいと思います。スマート情報化の社会、あるいはコミュニティは、どういう意味を持つのだろうかという点について、今の段階では個別の実証検証から始まっているわけですが、それが少しずつトータルなものとして見えつつあるかなと今日も感じました。

やはり、これまで公共・民間も含めて投資をしてきた都心のストックを、本当の意味で活かしきることのための支援技術をトータルで構築していくことかなと思います。

先ほどのまちづくりワークショップの説明でも、地域で事業をされている、活動されている方40名が参加されたと伺いました。これはひとえに実際の担い手の方々、地権者さん、建物所有者さんでない場合もあるので、直接か間接かは別ですが、地域の担い手の方々から直接いろんなご意見出されているのはとても意味があることです。ワークショップの中で高校生が四日市を怖い街だと思っているのは驚きましたし、家族で来て行く場所がない、日中の居場所がないという意見も改めて痛感しました。そのような課題に対して、公共投資・民間投資による既存ストックを本当に活かしきるにはどうすればいいのかという観点で、スマート情報化の技術は非常に役立つんじゃないかなと思いました。例えば、先ほどご説明があった、B-1グランプリについても、20万人程度来街者がおり、去年の社会実験、四日市ジャズフェスティバルやBAURAのイベントでも相当な数の人が集まっている。このようなイベント開催時の人流あるいはニーズをコントロール・マネジメントしていくことは元よりです。また、イベントが行われてない日常時の方が実は期間が長い。市民が主体となり、イベントのための日常的な準備やいろんな練習もされるわけですね。ジャズも、四日市の太鼓もそう。そういう活動の小さな拠点が、従来は地域の公民館を借りたり、ご不便不都合があったというお話も聞いている。例えばそういう活動の場として、都心地域の場所を時間を区切って使いたいとか、小さな空間でも使いたいとか、音を出していい空間が欲しいとか、従来なかなかマッチングしにくかった利活用をおそらくこれからできるようになるんじゃないかと。これは一つの例というかヒントなんですが、そのようなものを切り口にしながら従来の都心ストックを本当の意味で使い切る、あるいはさらにそれで価値を高めていく、その次の更新につなげていくことができるようなスマート情報化プラットフォームがトータルで出来てくるといいと思ってました。そのための分科会、あるいはワーキングが、それぞれの個別要素、あるいは技術の実証をされているということで非常に良いご報告をお聞きしたなということが実感

です。ですからあとは将来展望の軸といいますか、目指すべきトータルの方向というのは、やはり都度確認していけばいいのかなと思っています。以上です。

<進行>

有賀先生、ありがとうございました。最後に村山先生からコメントをいただけますでしょうか。

<村山先生>

これだけの規模のスマートシティの事業を推進協議会の形式で企業の皆さん主体でやっていく大変な取り組みなんですけれども、具体的に動いてきてすごく楽しみになっています。

今日いくつも議論がありましたけれども、私からは2点申し上げたいと思います。

1点はハード事業との関係です。これから何年かかけて、あの中央通りがどんどん変わっていきますので、それを横で見ながらスマートシティ事業を動かしていく。それから色々と、社会実験等を重ねていく中で、空間としてこうあるべきだ、基本計画は決まっていますけれども、細かい色々なデザインっていうのは随時検討していくものですので、いろんな社会実験から空間の整備に関してもいろいろと知見がいただけるというと思います。

それから2点目ですけれども、これはマネタイズの話に絡みます。スマートシティの事業というのはどちらかという、技術先行で進む部分があって、それによっていろいろ新しいことができるという点はいいのですが、何のためにやっているのかということについては常に確認する必要があると思います。ビジネスユースでうまく市場の中でお金を回していくという部分もあるし、目的によっては防災とか環境とか公共的な目的でスマートシティ事業をやることもあるので、それは税金を投入する根拠になるわけです。その辺、やはり何のためにこれをやっているのかということを常に意識しながら進めていくことが重要だと思います。

今年度の後半、終盤に、この実行計画のアップデートも予定されているということでしたので、改めて今のような話は、その中で皆さんと議論できればと思っています。以上です。ありがとうございました。

<進行>

村山先生、ありがとうございました。いただいたコメントに対する市の対応等がもしあれば、担当課よりご発言いただけますでしょうか？ よろしいでしょうか？

【3. 閉会】

<進行>

では以上をもちまして、令和5年度第2回幹事会を閉会させていただきます。次回の幹事会は3月26日14時からを予定しております。詳細につきましては、改めて事務局より連絡をさせていただきます。なお、連絡先等が変更になる場合はご一報をいただきますよう何卒よろしくお願い致します。本日は忌憚のないご意見をいただきまして誠にありがとうございます。また、進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。